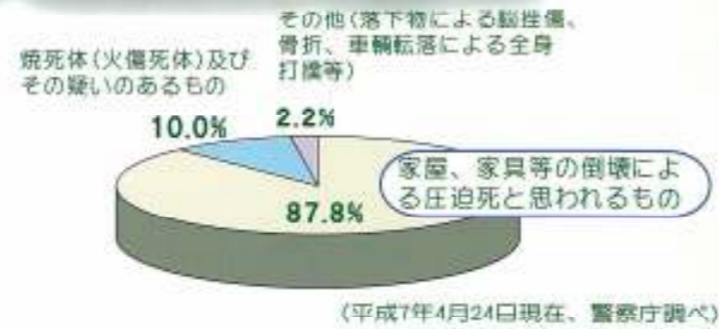


新耐震基準に適合しない古い建物は、地震による被害が大きくなります。

もしも音更町で大きな地震が発生したら・・・

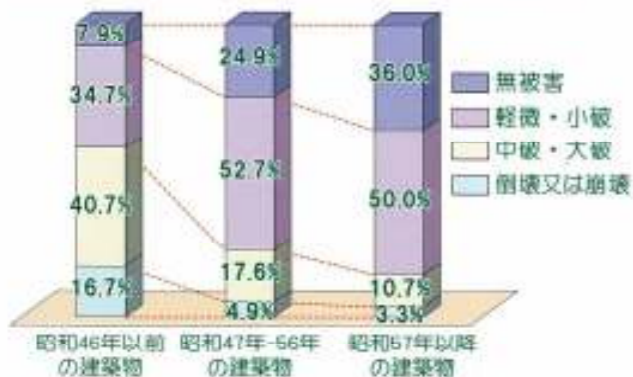
地震による人的被害の原因として多いのは「家屋倒壊」による被害です。

阪神・淡路大震災では、人命を奪った最も多い原因が、「家屋倒壊」によるものでした。建物の「耐震性」が十分ではない場合、地震による家屋の倒壊の恐れがあります。



昭和56年5月以前築の建物は要注意です。

図 阪神・淡路大震災における年度別の建物被害



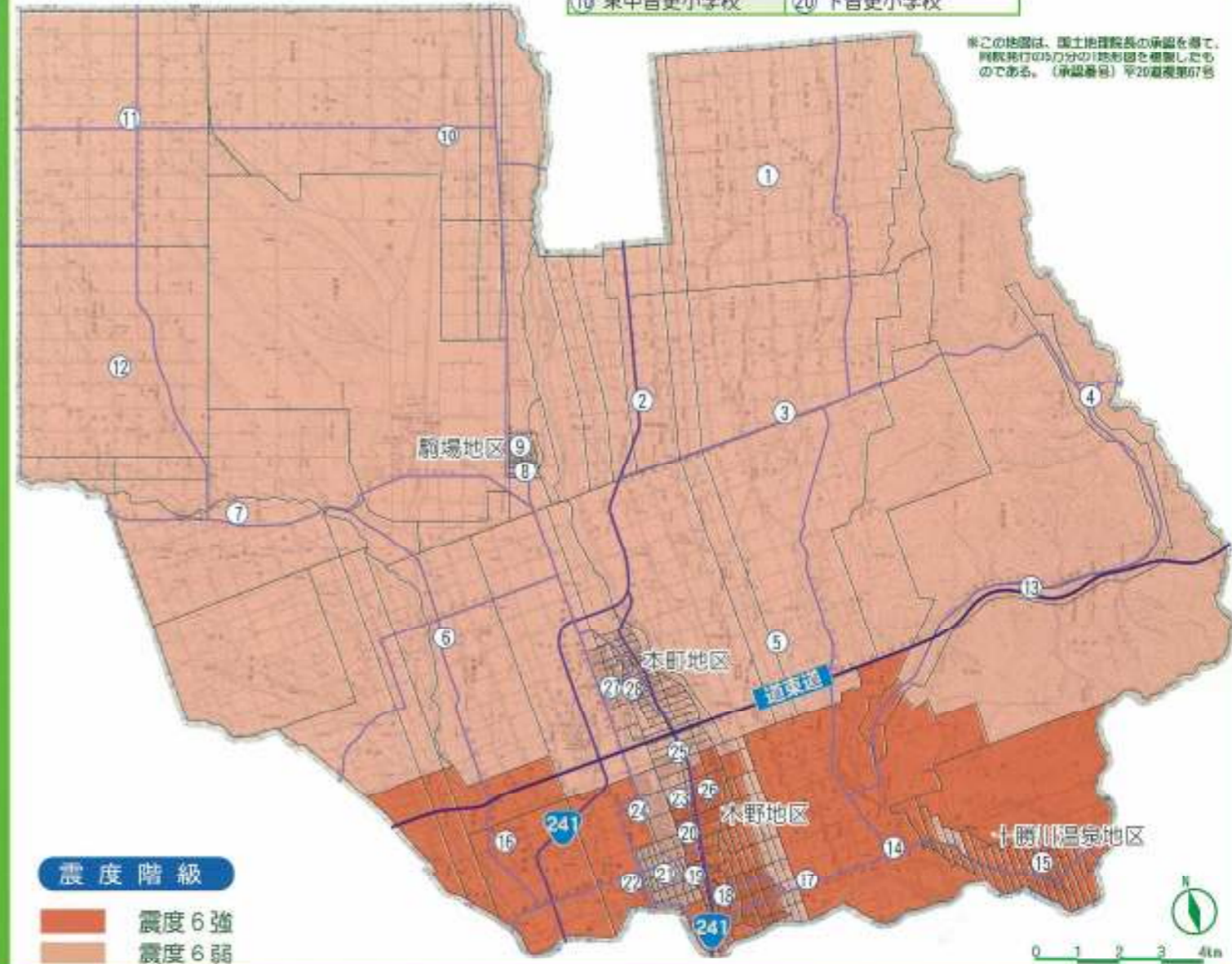
昭和56年6月1日に「建築基準法」が改正され、これ以降の建物には「新耐震基準」への適合が必要となりましたが、町内には「新耐震基準」に適合しない建物が多く存在します。阪神・淡路大震災では、大きな被害を受けた建築物の多くが昭和56年5月以前築でした。特に昭和46年以前築は大きな被害が出ています。

想定地震として、「全国どこにも起こりうる直下の地震」が発生した場合、音更町の多くの地域で「震度6強～6弱」の強い揺れが予測されます。(H15年十勝沖地震での最大震度は「震度5弱」でした)

音更町揺れやすさマップ

★「全国どこにも起こりうる直下の地震」とはこの地震は、中央防災会議が、全ての地区において発生する可能性のある地震として、地区の直下にマグニチュード6.9の地震を想定したものです。

避難所一覧		
① 豊田小学校	⑪ 西中音更小学校	⑳ 下音更中学校
② 適応指導教室	⑫ 南中音更小学校	㉑ 鈴蘭小学校
③ 東土橋小学校	⑬ 長流校舎の家	㉒ 共栄中学校
④ 旧藤原公民館	⑭ 下土橋小学校	㉓ 緑陽台小学校
⑤ 昭和小学校	⑮ 十勝川温泉湯の里会館	㉔ 開進生活館
⑥ 東土府小学校	⑯ 然別公民館	㉕ 柳町小学校
⑦ 集団研修施設	⑰ 緑南中学校	㉖ 音更中学校
⑧ 駒場中学校	⑱ 木野東小学校	㉗ 音更小学校
⑨ 駒場小学校	⑲ 木野コミュニティセンター	
⑩ 東中音更小学校	⑲ 下音更小学校	



※地震の揺れによる体感と周囲の状況「震度別」(気象庁)



大半の人が、物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。



立っていることが困難になる。



立っていることができず、はわないと動くことが出来ない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。

どのようにして耐震性を診断するの?

耐震性は、その建物に求められる必要耐力(Pd)に対する、現在建物を持っている保有耐力(Or)の割合「上部構造評点」で示します。[一般診断法の場合]



$$\text{上部構造評点} = \frac{Pd \text{ 保有耐力}}{Or \text{ 必要耐力}}$$

1.5以上	倒壊しない
1.0～1.5未満	一応倒壊しない
0.7～1.0未満	倒壊する可能性がある
0.7未満	倒壊する可能性が高い

P 壁強さ
壁の数→多く設ける(配置のバランスも大切)
壁の材料→堅いものを選ぶ(構造用合板など)
すじかい→多く設ける

E 壁の配置のバランス
縦方向、横方向それぞれの壁の配置
→平面でみて、バランス良く配置する

D 劣化の度合い
壁や基礎のひび割れ、金属部分のサビ、木材の腐食やカビ
→補修や取り替えなどして出来るだけ新しくする



保有耐力 Pd は、

$$P \text{ (壁強さ)} \times E \text{ (壁の配置のバランス)} \times D \text{ (劣化の度合い)} \text{ で決まります。}$$